

用語集

(50音順)

用語	説明
AVS30	<ul style="list-style-type: none">・地表から深さ 30mまでの平均 S 波速度・表層地盤について、地震動の揺れやすさ（増幅度）を推定するための指標
DID 地区	<ul style="list-style-type: none">・総務省国勢調査において設定される統計上の地区で人口集中地区（Densely Inhabited District）・統計データに基づいて一定の基準により設定され、総務省国勢調査基本単位区等を基礎単位として、①「原則として人口密度が 1 平方キロメートル当たり 4,000 人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接」して、②「それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に 5,000 人以上を有する地域」
FL 値	<ul style="list-style-type: none">・地盤のなかの土層が液状化の起こりやすさを示す指標・地震時に土層に作用する地震動の強さと土層の液状化に対する抵抗力を各深度（通常は深さ 1 m 間隔）で比較して判定した値
GIS	<ul style="list-style-type: none">・地理情報システム（Geographic Information System）の略称・地理的位置を手がかりに、位置に関する情報をもったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示することで高度な分析や迅速な判断を可能にする技術
kine	<ul style="list-style-type: none">・地面の動く速さを表す単位・1 kine（カイン） = 1 cm/s
N 値	<ul style="list-style-type: none">・ボーリング地質調査時に得られる値で、地盤の固さを示す指標・構造物を支持する地耐力の算定や液状化の起こりやすさの判定や S 波伝播速度の推定などに使用
PL 値	<ul style="list-style-type: none">・表層地盤の液状化の起こりやすさを表す指標
PS 検層	<ul style="list-style-type: none">・ボーリング調査により地盤に掘削された直径が 70mm から 100mm 程度のボーリング孔を用い、地盤内を伝播する弾性波（P 波及び S 波）の速度を測定する方法
P 波・S 波	<ul style="list-style-type: none">・地震動には、表面を伝播する表面波（surface wave）と地盤内を伝播する実体波（Body wave）があり、実体波には P 波（Primary wave）と S 波（Secondary wave/Shear wave）がある。・P 波は縦波で S 波より速く伝播する。縦波は波の進行方向に振動しながら伝わる。・S 波は横波で、表面波より速く伝播する。横波は波の進行方向に対して直角方向に振動しながら伝わる。

用 語	説 明
SI 値	<ul style="list-style-type: none"> アメリカの地質学者ハウスナー（G. H. Housner）によって提唱された、地震によって一般的な建物にどの程度の被害が生じるかを数値化した指標で、次の式で与えられる。 $SI = \frac{1}{2.4} \int_{0.1}^{2.5} Sv(h, T) dT$ Sv：速度応答スペクトル（cm/s）、T：固有周期（s）、減衰定数（h）は20%として定義されることが多い。 SI 値は都市ガスのセンサーや、鉄道の地震検知システムに導入されており、地震発生直後に被害の程度を判断するために用いられる。 また、SI 値と気象庁の計測震度とは非常に相関が高いという調査結果もある。
アスペリティ	<ul style="list-style-type: none"> 震源断層のなかで特に強い地震波を生成する領域 地下の震源断層面には、通常は強く固着している領域と比較的滑りやすい領域があり、強く固着している領域のことを指す。
一時滞在施設	<ul style="list-style-type: none"> 行き場のない帰宅困難者を受け入れる施設 令和4（2022）年1月1日現在の確保状況：約44万3千人分
液状化	<ul style="list-style-type: none"> 水を含む緩い砂質の地盤が地震の強い揺れを受けて液体のような挙動をする現象 砂混じりの水が吹き出し（噴砂）、横方向へ移動する（側方流動）等 建物等は沈下や傾斜、マンホールや浄化槽等の浮き上がりが発生 側方流動によって基礎杭が折れる可能性あり
液状化危険度	<ul style="list-style-type: none"> PL 値で判定される液状化の危険度
延焼遮断帯	<ul style="list-style-type: none"> 地震に伴う市街地火災の延焼を阻止する機能を果たす帯状の不燃空間 道路、河川、鉄道、公園等の都市施設及びこれらと近接する耐火建築物等により構成
延焼クラスター	<ul style="list-style-type: none"> 地震に伴う火災が、消防活動が全く行われなかった場合の延焼範囲・延焼限界距離（建物の構造ごとに設定）よりも隣の建物との間隔が狭い場合には、それらの建物群をひとまとまり（延焼クラスター）として捉え、その範囲内から出火するとすべて燃え尽きるとする考え方
延焼シミュレーション	<ul style="list-style-type: none"> 建物、道路、空地等の形状といった市街地状況を踏まえ、延焼拡大状況を推定するモデル

用語	説明
応答スペクトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応答スペクトルは、いろいろな固有周期をもつ様々な建築物や構造物に対して、地震動がどの程度の強さの揺れ（応答という）を生じさせるかを示したもの。 ・ 建築物や構造物の揺れは、同じ固有周期と減衰定数（揺れが時間とともに弱まっていく程度を示す定数のこと）をもつ倒立振り子の揺れとして近似される。 ・ 様々な固有周期や減衰定数をもつ振り子に地震動を入力して振らせた場合の揺れの最大値を周期の関数として表示する。 <div style="text-align: center;"> <p>地面に対する建物の相対的な動き</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>建築物や構造物の揺れは同じ固有周期と減衰定数をもつ倒立振り子の揺れで表される。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>様々な固有周期をもつ倒立振り子がある地震動で振らせた場合の振幅を表示すると図のような応答スペクトルのグラフが得られる（原子力安全委員会、2007）</p> </div> </div>
応力降下量	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震の発生前と発生後での断層面上における力（エネルギー）の変化
大すべり域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 断層面のなかで大きく滑る領域 ・ 特に大きく滑る領域は「超大すべり域」と言う。 ・ 津波を評価するための断層モデルに使用
海溝型地震	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海のプレートと陸のプレートの境界に位置する海溝沿いで発生する地震 ・ 海のプレートと陸のプレートとの間のずれによって生じる地震（プレート間地震）と、海のプレート内部の破壊によって発生する地震（スラブ内地震）がある。 ・ 海溝型地震の震央は海のなかである場合が多く、その場合、地震に伴い津波が発生する可能性がある。
開削トンネル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地上から地盤を掘削し、そのなかに鉄筋コンクリート等でトンネルを作り、その後埋め戻す工法により作られたトンネル
加速度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震動の揺れの大きさを示す物理量の一つであり、構造物等に働く力を評価する量 ・ 単位は「ガル（cm/s^2）」

用語	説明
活断層	<ul style="list-style-type: none"> 過去に繰り返し活動したことから将来も活動して地震を発生させると考えられる断層
感震ブレーカー	<ul style="list-style-type: none"> 地震の揺れを感知し、予め設定した震度以上の場合に、分電盤のブレーカーを強制遮断して電源をストップする装置 一般的なブレーカー（漏電がある場合のみ自動遮断）では防げない通電火災の防止効果がある。
疑似応答スペクトル	<ul style="list-style-type: none"> 応答スペクトルには、加速度応答スペクトル、速度応答スペクトル、変位応答スペクトルの3種類がある。 これら3つのスペクトルの間には近似的な関係があり、この関係を利用して求めたものを疑似応答スペクトルと言う。
帰宅困難者	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害が発生し交通機関等が麻痺した場合、自宅等に帰宅することが困難な通勤・通学者や旅行者
急傾斜地	<ul style="list-style-type: none"> 傾斜度が30度以上である土地 強い地震が発生すると山岳地や丘陵地でがけ崩れや土石流・斜面崩壊等が発生する可能性あり
救護所	<ul style="list-style-type: none"> 災害拠点病院等の近接地等や避難所等に設置され、搬送前の応急処置や軽傷者の治療等を行うために確保された場所
強震動生成域 (SMGA)	<ul style="list-style-type: none"> 断層面のなかで特に強い地震波（強震動）を発生させる領域
距離減衰式	<ul style="list-style-type: none"> 距離減衰とは、地震が発生した場所から遠くなればなるほど地震の揺れが弱くなる現象 過去に発生した数多くの地震データを統計的に処理して、地震の揺れの強さと震源からの距離との関係を表した経験式
緊急輸送道路	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害時に救助・救急・医療・消火活動及び避難者への物資供給等に必要となる人員及び物資等の輸送を行うため、各地の防災拠点や避難地を連絡する道路
傾斜角	<ul style="list-style-type: none"> 水平面に対する断層面の角度
経験的手法	<ul style="list-style-type: none"> 距離減衰式を使って震度を推定する手法
広域避難場所	<ul style="list-style-type: none"> 地震火災から住民の生命を守るため、火災が鎮火するまで待つ場所として指定された避難場所 被災等により自宅に住み続けることができない場合に避難するための避難所とは異なる。
工学的基盤	<ul style="list-style-type: none"> 構造物を設計する際に地震動設定の基礎とする良好な地盤 岩石の堅さとS波の伝播速度には相関性があり、堅い岩石ほどS波速度が大きくなる。 本報告書においては、S波速度が350m/sの地盤を工学的基盤としている。

用 語	説 明
固有周期	<ul style="list-style-type: none"> ・周期とは、物体が振動するときの揺れが1往復にかかる時間 ・固有周期は、その物体が最も揺れやすい周期で物体の性質により異なる。 ・地震動の周期と一致すると建物が共振し揺れが大きくなる。
災害関連死	<ul style="list-style-type: none"> ・災害による家屋の倒壊や火災、水難など災害の直接的な被害による死ではなく、避難生活の疲労や環境の悪化などによって、病気の発症や持病の悪化などにより死亡
災害拠点病院	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波・台風等の災害発生時に主に重症者の収容・治療等を行う病院
災害廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> ・災害に直接起因して発生する廃棄物のうち、生活環境を保全する上で支障となる、市区町村等が処理するもの。 ・東京都災害廃棄物処理計画では以下が対象 <ul style="list-style-type: none"> ○被災した住民の排出する生活ごみ（通常生活で排出される生活ごみは除く。） ○避難施設で排出される生活ごみ（避難所ごみ） ○一部損壊家屋から排出される家財道具（片付けごみ） ○被災建築物の解体撤去で発生する廃棄物 ○道路啓開や救助捜索活動に伴い生じる廃棄物 ○被災施設の仮設トイレからのし尿 ○被災した事業場からの廃棄物（事業活動に伴う廃棄物は除く） ○その他、災害に起因する廃棄物
相模トラフ	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島が位置する陸のプレートの下に南方からフィリピン海プレートが沈み込んでいる場所 ・プレート境界が固着しているため沈み込みに伴い両プレートの間にはひずみが蓄積されており、過去にはこのひずみを解放する大地震（大正関東地震：大正12（1923）年）が発生している。
朔望平均満潮位	<ul style="list-style-type: none"> ・各月の朔（新月）又は望（満月）の日の前2日、後4日以内に現れる各月の最高潮位の平均
差分法	<ul style="list-style-type: none"> ・統計的グリーン関数法は短周期地震動の評価に、差分法は長周期地震動の評価に使われている。 ・今回の被害想定では、計算機資源の限界でできなかった南海トラフ巨大地震を除き、統計的グリーン関数法と差分法で地震波形を計算し、マッチングフィルターを使って合成している。
地震最大加速度 (PGA)	<ul style="list-style-type: none"> ・地震動の強さの指標の一つで地表での加速度の最大値のこと ・震度と同様、ある場所においてどれだけ強く地面が揺れたかを表すもの
最大速度 (PGV)	<ul style="list-style-type: none"> ・地震動の強さの指標の一つで観測した速度記録の最大振幅値を表すもの
地震時管制運転装置	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の揺れを検知した場合にエレベーターを最寄階に停止して戸を開放させる装置 ・なお、現行の建築基準法においてはP波を検知できる必要があり、P波検知器がなくS波のみ検知する装置は既存不適格

用 語	説 明
地震動	<ul style="list-style-type: none"> 地震波が伝わってきたある地点での地面や地中の揺れ 本報告書では、岩石の破壊そのものを「地震」、地震による地面の揺れを「地震動」と呼び区別 なお、「揺れ（地震動）」は、震源から遠く離れるに伴い小さくなっていく性質がある。
地震モーメント	<ul style="list-style-type: none"> 断層面をずらそうとする力の大きさのことで、地震を起こした断層運動の強さ 大型の地震の場合は地震計の振幅と震央距離から算出するマグニチュードよりも破壊エネルギーの大きさを正確に表す。
地すべり	<ul style="list-style-type: none"> 斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象
地盤増幅度	<ul style="list-style-type: none"> 地震波が工学的基盤上から地表に伝わる際に速度波形の最大振幅（最大速度）の増幅度
初期消火	<ul style="list-style-type: none"> 出火間もない状態で居住者や隣人等が水や消火器などを用いた消火
自力脱出困難者	<ul style="list-style-type: none"> 損壊した建物に閉じ込められ自力で脱出することが困難な者
シールドトンネル	<ul style="list-style-type: none"> シールド機と呼ばれる掘削機で地中を掘り進めることにより作られたトンネル
震源・震源域	<ul style="list-style-type: none"> 最初に断層のずれが始まり、地震波が発生した地点が震源、断層のずれが生じた範囲全体が震源域
震源断層モデル	<ul style="list-style-type: none"> 1つの地震について、その発生源となった地下の断層面の構造・動きのモデル
浸水深	<ul style="list-style-type: none"> 河川敷や市街地等が水に浸り、その地面から水面までの高さ
新耐震基準	<ul style="list-style-type: none"> 昭和 56（1981）年 6 月 1 日から施行された建築基準法に基づく耐震基準 木造住宅について、震度 5 強程度でほとんど損傷しない、震度 6～7 程度で倒壊・崩壊しないことを目安とした耐震基準
深部地盤モデル	<ul style="list-style-type: none"> 地震基盤上面（地震基盤の目安である地震波の S 波速度が 3 km/s 程度を示す層の上面）から工学的基盤上面（工学的基盤の目安である地震波の S 波速度が 300～700m/s を示す層が上面）までの地盤構造 深さは数 10～3,000m 程度 周期 2 秒以上の長周期成分も含め、広帯域地震動評価で対象となる全周期帯（0.1～10 秒）の地震波の増幅に影響する。
すべり角	<ul style="list-style-type: none"> 断層面の下側の地盤（下盤）に対する、断層面上側の地盤（上盤）の滑った方向

用語	説明
スラブ内地震	<ul style="list-style-type: none"> 沈み込んだ海洋プレートに力が加わった後にプレートが破断し発生する地震 海溝等から沈み込んだ海洋性プレートのことをスラブと呼ぶ。 プレート境界型の地震のように、同じような領域が繰り返し破壊されるような周期性は確認されておらず、スラブ内部のどこで起きるのか予測するのが難しい。
正断層・逆断層・横ずれ断層	<ul style="list-style-type: none"> 断層面を境として両側のブロックが上下方向に動くとき、「縦ずれ断層」といい、断層面が傾いている場合、両側の岩盤のうち、浅い側を「上盤」、深い側を「下盤」と呼ぶが、「縦ずれ断層」のうち、上盤側がずり下がる場合を「正断層」、のし上がる場合を「逆断層」という。 一方、両側のブロックが水平方向に動くときは「横ずれ断層」といい、相手側のブロックが右に動く場合を「右横ずれ断層」、左に動く場合を「左横ずれ断層」という。
セグメント	<ul style="list-style-type: none"> 活断層を、過去の活動時期、平均変位速度、平均活動間隔、変位の向きなどに基づいて区分した断層区間
ゼロメートル地帯	<ul style="list-style-type: none"> 地表標高が満潮時の平均海水面よりも低い土地
全壊・半壊・大規模半壊	<ul style="list-style-type: none"> 被害認定基準に基づいて設定される住家の被害程度であり、それぞれ具体的には以下のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ○全壊：住家はその居住のための基本的機能を喪失したもので、損壊部分の床面積がその住家の延床面積の70%以上に達した程度のも、又は住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表した場合に50%以上に達した程度のも ○半壊：住家はその居住のための基本的機能の一部を喪失しているが、補修すれば元通りに再使用できる程度のもので、損壊部分とその住家の延床面積の20%以上70%未満、又は損害割合が20%以上50%未満のもの ○大規模半壊：「半壊」のうち、構造耐力上主要な部分の補修を含む大規模な補修を行わなければ当該住宅に居住することが困難なもので、損壊部分とその住家の延床面積の50%以上70%未満、又は損害割合が40%以上50%未満のもの
せん断応力	<ul style="list-style-type: none"> 物をずらすような内部応力（内部に生じる力）
走向	<ul style="list-style-type: none"> 断層面と水平面が交差する線の方向で、北から時計廻りに計った方位角で表す。
側方流動	<ul style="list-style-type: none"> 地震時に発生する液状化に伴い、地盤が水平方向に大きく変位する現象
粗度係数	<ul style="list-style-type: none"> 表面の粗さを示す係数 粗度係数が大きいほど津波は陸上を進みにくくなる。
耐震等級	<ul style="list-style-type: none"> 地震に対する構造躯体の倒壊、崩壊等のしにくさを表す指標

用語	説明
太平洋プレート	<ul style="list-style-type: none"> 海洋プレートの1つで、北からアリューシャン海溝、カムチャツカ海溝、日本海溝で北アメリカプレートに潜り込んでおり、また、マリアナ海溝でフィリピン海プレートに潜り込んでいる。
短周期レベル	<ul style="list-style-type: none"> 断層面全体が放出する短周期波動エネルギーの大きさを表現するパラメータで、短周期領域における加速度震源スペクトルのレベルを指す。 短周期レベルはアスペリティの総面積と密接な関係があることから、地震本部の強震動予測手法（レシピ）においては、震源断層モデルを設定する際、まず短周期レベルを設定し、それに基づいてアスペリティの総面積（km^2）を求めている。
卓越周期	<ul style="list-style-type: none"> 地盤が最も大きく揺れるとき、その揺れが1往復する時間のことで地盤の固有周期 地盤の性質によって異なり、軟弱な地盤ほど長くなる。 地盤の卓越周期と建物の固有周期が一致すると、共振現象により建物の揺れが大きくなる。
断層	<ul style="list-style-type: none"> 地下の地層もしくは岩盤に力が加わって割れ、割れた面に沿ってずれ動いて食い違いが生じた状態
断層帯地震	<ul style="list-style-type: none"> 断層がずれることによって発生する地震
断層パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> 地下の断層の特徴を断層の走向、傾斜角、すべり角という三つの数値で表現 <ul style="list-style-type: none"> ○走向：断層が水平方向でどの方向に伸びているかを示す。 ○傾斜角：断層面が水平面からどれだけ傾いているかを示す。 ○すべり角：断層がどの方向に動いたかを示す。
地域防災計画	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策基本法（昭和36年法律第223号）の規定に基づき、住民の生命、財産を災害から守るための対策を実施することを目的とし、都道府県知事等が防災会議に諮り策定する計画
地殻内地震	<ul style="list-style-type: none"> 活断層型地震の別名 陸側のプレート内部での断層運動により発生する地震 深さが概ね30kmよりも浅い地殻の内部で発生
長周期地震動	<ul style="list-style-type: none"> 規模の大きい地震により発生する周期の長いゆっくりとした大きな揺れ 建物等の構造物には揺れやすい周期（固有周期）があり、地震波の周期と構造物の固有周期が一致すると構造物が大きく揺れるが、高層ビルの固有周期は長いため、周期が長い長周期地震動の受けやすいとされている。
津波堆積物	<ul style="list-style-type: none"> 津波によって海底あるいは海岸の堆積物が削り取られ、それが津波とともに運ばれて別の場所に堆積した砂泥や石等
津波による要救助者	<ul style="list-style-type: none"> 津波の最大浸水深より高い階に滞留する者

用 語	説 明
津波避難施設（津波避難ビル、津波避難タワー）	<ul style="list-style-type: none"> 津波避難施設は、津波から人命を守るために人為的に整備された施設であり、津波避難ビル、津波避難タワーがある。 津波避難ビル：津波による被害が想定される地域のなかで、十分な高さ、強度を有するビルやマンション等を、地域住民等が一時もしくは緊急避難する施設として指定 津波避難タワー：近くに安全な高台や適切なビルがない地域において、津波避難ビルと同様の用途に用いるもので、上部に避難ステージをもつタワー状の構造物
堤外地、堤内地	<ul style="list-style-type: none"> 堤外地は、堤防に挟まれた水が流れている側 堤内地は、堤防により守られている住居や農地のある側
電灯軒数	<ul style="list-style-type: none"> 電力の供給を受けている軒数
東京湾平均海面（T.P.）	<ul style="list-style-type: none"> 日本の標高の基準となる海水面の高さ
統計的グリーン関数法	<ul style="list-style-type: none"> 既存の小地震の波形から大地震の波形を合成する方法には、経験的グリーン関数法と統計的グリーン関数法とがある。 経験的グリーン関数法は、想定する断層の震源域で発生した中小地震の波形を要素波（グリーン関数）として、想定する断層の破壊過程に応じて足し合わせる方法である。時刻歴波形を予測でき、破壊過程の影響やアスペリティの影響を考慮できる。ただし、予め評価地点で適当な観測波形が入手されている必要がある。 統計的グリーン関数法は、多数の観測記録の平均的特性をもつ波形を要素波とする方法である。評価地点で適当な観測波形を入手する必要はない。しかし、評価地点固有の特性に応じた震動特性が反映されにくい。時刻歴波形は経験的グリーン関数法と同様の方法で計算される。
道路橋示方書	<ul style="list-style-type: none"> 橋や高架道路等に関する技術基準 国土交通省が定め、コンクリート橋編、下部構造編、耐震設計編等で構成
道路啓開	<ul style="list-style-type: none"> がれきを処理し、段差を解消するなど、発災時に緊急車両等の通行ルートを確保すること
道路交通センサス	<ul style="list-style-type: none"> 日本全国の道路と道路交通の実態を把握し、道路の計画や建設、管理などについての基礎資料を得ることを目的として国土交通省が実施する調査
特定緊急輸送道路	<ul style="list-style-type: none"> 緊急輸送道路のうち、特に沿道建築物の耐震化を図る必要がある道路
南海トラフ	<ul style="list-style-type: none"> 静岡県駿河湾から九州東方沖までの海底で、約 700 km にわたって続く水深 4,000 m 級の深い溝（トラフ）の名称 南海トラフではマグニチュード 8 クラスの巨大地震が概ね 100 年から 150 年ごとに発生し、今後 30 年以内の発生確率は 70～80% とされている。

用語	説明
南海トラフ地震臨時情報	<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについて気象庁が発表する情報のうち、以下の場合に発表する情報 <ol style="list-style-type: none"> 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、又は調査を継続している場合 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
逃げまどい（延焼拡大時）	<ul style="list-style-type: none"> 地震で発生した火災から逃げる途中、市街地等が延焼しており、避難先を探して右往左往する状況
バース	<ul style="list-style-type: none"> 港内で貨物の積み卸しなどを行うために船舶が停泊する水域 船1隻が作業を行うために占める水域を1バースと呼ぶ。
パーソントリップ調査	<ul style="list-style-type: none"> 都市における人の移動に着目した調査 世帯や個人属性に関する情報と1日の移動をセットで調査することで、「どのような人が、どのような目的で、どこからどこへ、どのような時間帯に、どのような交通手段で」移動しているかを把握することが可能 調査周期は概ね10年に一度である。
背景領域	<ul style="list-style-type: none"> 地震波を生成する断層面のうち、特に強い地震波（強震動）を発生させる領域以外の領域
配電線	<ul style="list-style-type: none"> 変電所から需要家に電力を届ける配線線
ハイブリット法	<ul style="list-style-type: none"> 地震動の長周期成分を理論的手法（差分法）で計算し、短周期成分を半経験的手法（統計的グリーン関数法）で計算して重ね合わせる手法
破壊開始点	<ul style="list-style-type: none"> 断層運動が始まり、岩盤の破壊が開始される地点
微動アレイ探査	<ul style="list-style-type: none"> 地盤が常時わずかに動いていることを利用して行われる表層地盤の探査手法 微動は表面波という表層を伝わる波動の一つと考えられる。地震計を多数地表に配置し、同時に微動を観測して得られたデータを解析することによって、表面波の伝播速度や卓越する振動数等が得られ、さらに地盤におけるS波構造を推定することができる。
避難行動要支援者	<ul style="list-style-type: none"> 要配慮者のうち、災害が発生、又はそのおそれがある場合に、自ら避難することが困難であり、円滑かつ迅速な避難のために特に支援を要する人
避難場所	<ul style="list-style-type: none"> 震災時に大規模な延焼火災が発生した場合、火の手から身を守るために避難する場所 大規模な公園、緑地、耐火建築物地域などが指定されている。
避難所	<ul style="list-style-type: none"> 建物の被害やライフラインの被害によって自宅に住み続けることができない場合（そのおそれがある場合を含む。）に一時的に生活するための場所

用語	説明
標準貫入試験	<ul style="list-style-type: none"> ボーリング調査時に地盤の硬さを示す指標であるN値の測定のために実施される試験 重量 63.5Kg のハンマーを 75cm の高さから自由落下させ、貫入試験用サンプラーを 30cm 打ち込むのに必要な打撃回数（N値）を測定する。
表層地盤モデル	<ul style="list-style-type: none"> 工学的基盤（S波速度毎秒 300～700m の地層）から地表までの地盤モデル
フィリピン海プレート	<ul style="list-style-type: none"> 東は小笠原海溝やマリアナ海溝、北から西にかけては南海トラフ・琉球海溝・ルソン海溝・フィリピン海溝などに囲まれた海洋プレート
複合災害	<ul style="list-style-type: none"> 複数の災害に同時あるいは連続して被災して、被害が拡大し、災害対応の困難性が増す災害事象
福祉避難所	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害時に避難所生活が困難な障害者や高齢者など、何らかの特別な配慮を必要とする方が避難する施設
輻輳（ふくそう）	<ul style="list-style-type: none"> 1 か所に集まって混雑している状態 通信において、アクセスが集中して通信ができない状態
負傷者 （重傷者、軽傷者）	<ul style="list-style-type: none"> 当該災害によって負傷した人であり、重傷者と軽傷者に分けられる。なお、本被害想定における負傷者数の定量評価は基本的に過去の災害実績に基づいているが、災害報告における重傷者・軽傷者の定義は以下のとおりである。本被害想定における重傷者・軽傷者も、以下の定義に基づくものとする。 重傷者：当該災害により負傷し、医師の治療を受け、又は受ける必要のある者のうち1月以上の治療を要する見込みのもの 軽傷者：当該災害により負傷し、医師の治療を受け、又は受ける必要のある者のうち1月未満で治療できる見込みのもの （出典：総務省消防庁「災害報告取扱要領」） ※別途、発災時のトリアージの実施基準においては「重症群」「中等症群」「軽症群」といった分類があり、これらについても東京都福祉保健局「トリアージハンドブック」において傷病状態が示されているが、本被害想定における重傷者・軽傷者の定義はこれとは異なるものとする。
不同沈下	<ul style="list-style-type: none"> 建物や構造物が場所によって異なる沈み方をする現象。建物や構造物における傾斜やひびの発生につながる。
不燃領域率	<ul style="list-style-type: none"> 市街地の「燃えにくさ」を表す指標・建築物の不燃化や、道路や公園などの空地の状況から算出し、不燃領域率が70%を超えると市街地の焼失率はほぼゼロとなる。

用語	説明
プレート境界地震	<ul style="list-style-type: none"> プレートの境界で起こる断層運動による地震 太平洋プレートやフィリピン海プレートの沈み込みに伴い陸側のプレートの端が引きずりこまれ、限界に達したときに陸側のプレートが跳ね上がり、発生する地震
プレート内地震	<ul style="list-style-type: none"> 大陸プレート内部、海洋プレート内部で発生する地震
ボーリング調査	<ul style="list-style-type: none"> 地盤を機械（ボーリングマシン）によって掘削し、土層の構成を調査する方法 標準貫入試験やPS検層を併せて行うことにより、地盤の硬さや地震動の伝わる速さを測定することができる。 建設工事や地下資源調査・開発などの目的で地盤を機械によって掘削し掘り、地盤の土層の構成を把握する調査する方法
マグニチュード (M)	<ul style="list-style-type: none"> 地震の規模を示す指標で、震央距離と揺れの大きさから計算される。Eを地震のエネルギー(J)、Mを地震のマグニチュードとすると、$\log E = 4.8 + 1.5M$の関係がある。マグニチュードが1大きくなるとエネルギーは約32倍となり、マグニチュードが2大きくなるとエネルギーは1,000倍となる。
モーメントマグニチュード (Mw)	<ul style="list-style-type: none"> 地震の岩盤のずれの規模（ずれ動いた部分の面積×ずれた量×岩石の硬さ）を基にして計算した地震の規模（マグニチュード）
木造住宅密集地域	<ul style="list-style-type: none"> 都の「防災都市づくり推進計画」で示している、震災時に延焼被害のおそれのある老朽木造住宅が密集している地域 以下の各指標のいずれにも該当する地域（町丁目）を木造住宅密集地域として示している。 <ul style="list-style-type: none"> ①老朽木造建築物棟数率：30%以上 ②補正不燃領域率：60%未満 ③住宅戸数密度：55世帯/ha以上 ④住宅戸数密度（3階以上共同住宅を除く）：45世帯/ha以上
要配慮者	<ul style="list-style-type: none"> 65歳以上の単身高齢者、5歳未満の乳幼児、身体障害者、知的障害者、精神障害者、要介護認定者、難病患者、妊産婦、傷病者、外国人その他の特に配慮が必要な者
ライズタイム	<ul style="list-style-type: none"> 震源で断層のずれが形成されるのに要する時間
ライフライン	<ul style="list-style-type: none"> 生活や都市活動を支える基幹機能 電力、上水道、情報通信、ガス供給、交通・輸送の機能など
陸閘（りくこう）	<ul style="list-style-type: none"> 堤防を切って設けられた河川への出入り口を閉鎖する門 洪水時に閉められ堤防としての役割を果たす施設